

令和7年度 学校自己評価書

小美玉市立納場小学校 校長 三輪 輝子

1 今年度の取り組みの概要

学校経営の重点におけるキーワード「かがやく『笑顔』」に向かって、○授業改善及び指導力向上 ○心の教育の充実 ○保護者や地域の方々との連携・協働 ○学び続ける教師の育成 を柱に学校教育活動をすすめた。

努力事項として「確かな学力の育成」「豊かな心の育成」「健やかな身体の育成」「地域とともにある学校の推進」「教職員の資質能力の向上」の各項目について達成目標を設定し、目標のための具体的な方策を考え、実践に取り組んだ。

<達成度 A:十分に達成 B:おおむね達成 C:達成せず D:課題が残る>

◎ 組織目標についての具体的な取り組み

組織目標				
達成目標		具体的な方策	実施結果	達成度
○「授業改善」の推進 授業が楽しい・分かる 意見や考えを発表する 端末を利活用できる	90%以上 80%以上 95%以上	・「How・Why型」課題提示への変換 ・構成的な板書の工夫 ・学習形態の工夫 ・視点を明確にした振り返り	・「授業が分かる」 児童 96.6% 保護者 81.8% ・「意見や考えを進んで発表している」 児童 68.6% ・「タブレットを有効に活用できる」 児童 93.7% 保護者 80.7%	B
○「学級経営」の充実 学級が楽しい	95%以上	・互いのよさを認め合い「笑顔」あふれる学級づくりの推進 ・毎月の生活アンケートの実施 ・Q-Uテストの活用	・「学校が楽しい」 児童 96.5% 保護者 84.0% ・Q-Uテスト活用のための校内研修を行い学級経営に生かした	B
○「地域・家庭・学校」の連携・協働		・学校運営協議会を中心とした学習支援(納場っ子サポーター)の実施 ・地域の財産、人財の積極的活用	・納場っ子サポーターの参加延べ150名 ・授業サポート34回 ・「納場小学校は教員、保護者、地域が協力して教育活動を進めている」 学校運営協議会委員100%	A

2 今年度の成果と次年度に向けた課題

児童アンケートから、「授業中に自分の考えをもって話し合うことができる」は94.8%であった。ペアやグループで、自分の考えを受け入れてもらえる環境づくりが必要である。また、学級全体としても「共感的な人間関係」や「安全安心な風土の醸成」を作っていく必要がある。Q-Uテストも参照しながら、まずは少人数グループで自分の考えを発表できるようにしたい。

また、「学校が楽しい」と感じている保護者が、児童に比べて12.5%低い。家庭環境の複雑化、多様化の中で子どもと対話することができない保護者が増えていると予想される。授業参観だけでなく、授業サポート等も協力しながら子どもの様子を見てもらう機会を設ける必要がある。

3 保護者や地域への皆様へ

保護者の皆様、地域の皆様、日頃より本校の教育活動に深いご理解とご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。おかげさまで、児童は安全に充実した学校生活を送ることができました。学校経営のキーワードに「かがやく『笑顔』」をかかげ、みんなが笑顔になれる地域とともにある学校を目指して取り組んできました。

今年度は「元気なあいさつ」を意識し、代表児童が毎朝正門に立ち率先してあいさつをしたり、児童自らがお昼の放送やポスターであいさつの大切さを伝えたりしてきました。地域の登下校見守りボランティアの皆様には、あいさつや歩き方への声かけを含め、年間を通して児童の安全な登下校のためにご尽力いただきました。ありがとうございました。

授業支援につきましては、「納場っ子サポーター」として、各学年各教科において、年間延べ150名を超える保護者や地域の方々に積極的に参加いただき、子どもたちはより充実した学習をすることができました。また、12月開催の「納場っ子まつり」では、学校運営協議会の皆様にご尽力いただきながら準備を行い、地域の方との体験活動を通して、納場のよさ、小美玉のよさを子どもたちは実感することができました。また、学校田「ぼん田くんファーム」での田植え、稲刈り、脱穀、学校畑でのさつまいも栽培等、子どもたちにとって貴重な体験活動を実施することができました。このような様々な活動を年間を通してできるのも、保護者、学校運営協議会、納場地区教育振興後援会、小美玉市民の会、名友会、納場コミュニティの皆様等本当に多くの方々の支えがあってこそです。今後も、納場っ子の更なる成長のためによりよい教育活動ができますよう、職員一同努力してまいります。今後とも、本校の教育力の向上、発展に変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。